



災害対策論（基礎概論）

災害対策の基礎を体系的に学ぶオンライン講義

東京大学生産技術研究所附属災害対策トレーニングセンター
Disaster Management Training Center, IIS, The University of Tokyo



災害対策論（基礎概論）

災害対策の基礎を体系的に学ぶオンライン講義

対象者：行政職員、民間企業、住民など、どなたでも受講可能。予備知識も不要。

内容：災害対策の7つのフェーズ、総合的災害対策マトリクス、リスク・マネジメントとクライシス・マネジメント、意思決定の考え方、47種の災害対策業務など。

修了評価：3問に回答（確認テスト、災害対策マトリクスと47種の災害対策業務を提出）

受講料：33,000円（消費税込み）

学習時間：約23時間。

受講期間：受講開始日より6カ月以内に修了。

申込方法：DMTC CAMPUSの開設。「DMTC CAMPUS = 受講者のマイページ」。

URL：<https://tdmtc.tokyo>

Program

8分野	講義タイトル	講師
1. 災害対策原論	災害対策の 基礎原論	目黒公郎 東京大学生産技術研究所 教授
	危機管理 の要諦	伊藤哲朗 東京大学生産技術研究所 客員教授
	市町村 の災害対策を学ぶ	室田哲男 元総務省消防庁国民保護 防災部長
	効果的な災害対応 を実現するためのポイント	沼田宗純 東京大学生産技術研究所 准教授
2. ガバナンス・組織運営	組織対応と意思決定 の概論	沼田宗純 (同上)
	災害対策本部運営 の基礎概論	田中健一 東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー
	企業活動から学ぶ BCP の本質	高橋克彦 インフォコム株式会社 事業継続主任管理士
3. 災害情報	災害情報 概論	沼田宗純 (同上)
	災害時の 情報伝達	関谷直也 東京大学大学院情報学環 准教授
4. 救助・災害医療支援	多様な人々の 連携プレー で命を守り、命をつなぐ	沼田宗純 (同上)
	救助・救急・医療・保健衛生 の体制と課題	神原咲子 神戸市看護大学 教授
	法医学 から学ぶ災害対策マネジメント	斉藤久子 千葉大学大学院 法医学教室 准教授
5. 避難・被災者支援	避難と被災者支援	沼田宗純 (同上)
	避難所 の設置と運営	田中健一 (同上)
6. 地域再建支援	生活基盤の「 家 」を中心とした生活再建	沼田宗純 (同上)
7. 社会基盤システム再建	インフラ復旧と災害廃棄物 対策概論	沼田宗純 (同上)
	インフラ復旧 から学ぶ災害対応マネジメント	田村秀夫 東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー
	災害廃棄物 対策概論	沼田宗純 (同上)
8. 社会経済活動回復	災害救助法 の概要と 財源確保 の基礎	沼田宗純 (同上)
	災害救助法 の徹底活用	田中健一 (同上)
	災害対応における 財源確保 の基礎	滝 陽介 東京大学大学院総合文化研究科 客員教授

1. 災害対策原論

災害対策原論は、多様な災害対策の考え方の体系を理解し、災害対策を推進することを目的とする。そのために、自然と人間社会の関係、歴史、理学・工学・社会学など分野間の関係、行政・営利組織・非営利組織・住民など多様な他者との相互関係を通して、事前から事後に至るまで災害対策を多面的に理解する。そして、ハザード別、主体別、時間・フェーズ別、ハード・ソフト別など災害対策の知識体系を構築し、その活用手法を確立する。

「災害対策の基礎原論」

目黒公郎 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環総合防災情報研究センター長

講義内容

適切な災害対策を実現するためには、3つの条件が必要である。まず、「敵を知ること」。これは、自然科学と社会科学に基づいた①ハザードと②災害に関する正確な知識を持つことである。次に、「己を知ること」。これは災害を理解するための対象地域の①地域特性、所属する②行政・自治体の能力、③自分自身の能力を知ることである。そして最後に必要となるのが、「災害イメージーション」である。災害を具体的な形で想像することにより、現在と将来の問題を発見・評価し、適切な対策を検討し、適切なタイミングで災害対策を実施することが可能になる。

本講義では、災害のメカニズムと対策の基礎概念を説明し、総合的災害管理による災害対策の全体像について学ぶ。

「危機管理の要諦」

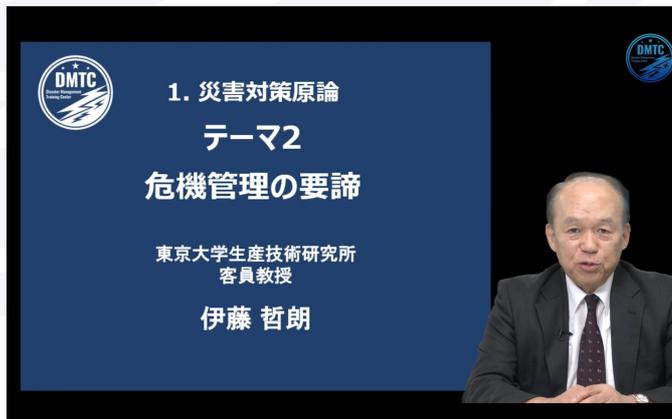
伊藤哲朗 東京大学生産技術研究所・客員教授

講義内容

危機の態様はそれぞれに異なる。しかし、危機への対応は、国・地方公共団体・会社・家族・個人など多様な立場があるが、危機管理の基本は同じ考え方で理解できる。危機に備えてリスクをゼロにすることはできないが、危機を防止し被害を最小化することは可能であり、危機による被害の最小化に努めることが重要である。

本講義では、危機管理とは何か、我が国を取り巻く危機にはどのようなものがあるか、危機に対する基本的な考え方、クライシスマネジメントの基本原則、危機に備えた組織作り、リーダーや指揮官の心構え、危機管理における根底となる考え方、危機に備えた事前準備について学ぶ。

講義動画



1. 災害対策原論

災害対策原論は、多様な災害対策の考え方の体系を理解し、災害対策を推進することを目的とする。そのために、自然と人間社会の関係、歴史、理学・工学・社会学など分野間の関係、行政・営利組織・非営利組織・住民など多様な他者との相互関係を通して、事前から事後に至るまで災害対策を多面的に理解する。そして、ハザード別、主体別、時間・フェーズ別、ハード・ソフト別など災害対策の知識体系を構築し、その活用手法を確立する。

「市町村の災害対策に学ぶ」

室田哲男 元総務省消防庁国民保護・防災部長

講義内容

市町村は住民に最も身近な行政機関で、地域の実情を踏まえ、最前線で災害対策を行う。住民・住民団体との協働（自助・共助・公助）、地元防災関係機関、民間事業所、ボランティア、NPO等多様な主体との連携、国・都道府県との連携、広域応援実動機関、他の自治体等との応援派遣・受援など、市町村を結節役とした多様な主体の協働による災害対策が行われる。そのため、行政職員だけではなく地域住民、民間企業など多くの方が市町村の災害対策に学ぶ意義は大きい。本講義では、市町村の災害対策の基本理念、災害に強いまちづくり、地域防災力の強化、災害予防対策、市町村の災害対応力の強化、災害初動対応、被災者支援、復旧・復興について学ぶ。

「効果的な災害対応を実現するためのポイント」

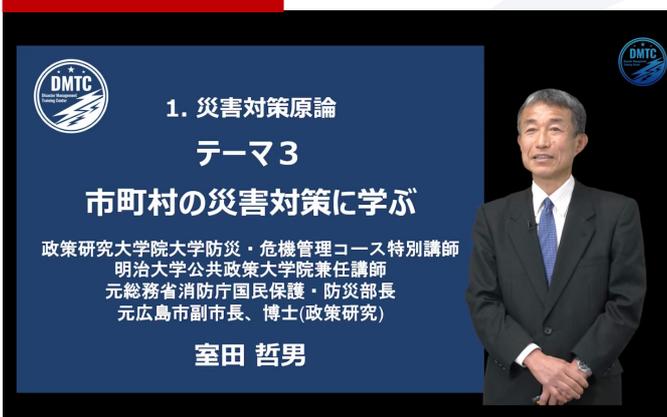
沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

講義内容

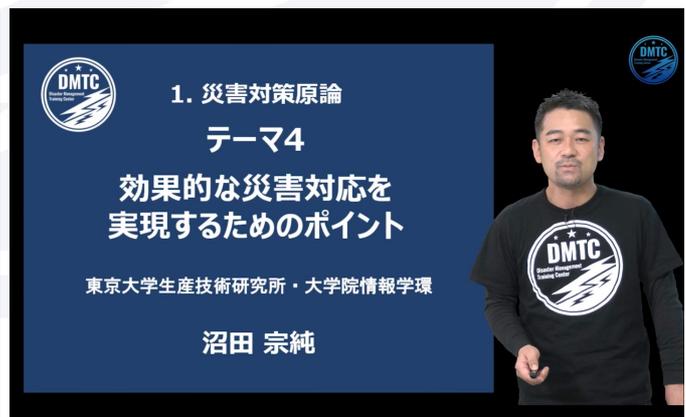
災害対応や危機対応の特徴としては、曖昧な状況での意思決定、膨大な仕事量（業務量、業務の種類ともに）、時間的余裕のなさ、マスコミ・住民からの批判のほか、自治体職員も被災者であり身の危険に曝されていることなどがある。後手にならずに先取りで効果的な災害対応を実現するためには、災害対応プロセスによる全体像の理解、情報処理プロセスの構築、機能配置計画、ガバナンス・チームビルディングの構築が重要である。

本講義では、危機対応の特徴～災害対応における先読みの重要性～、対応可能な被害規模とは～RLIという考え方～、様々な人々が推進する災害対策～総力戦で闘うということ～、災害対応の標準化の視点、災害対応の型の重要性、47種の災害対策業務について学ぶ。

講義動画



DMTC
1. 災害対策原論
テーマ3
市町村の災害対策に学ぶ
政策研究大学院大学防災・危機管理コース特別講師
明治大学公共政策大学院兼任講師
元総務省消防庁国民保護・防災部長
元広島市副市長、博士(政策研究)
室田 哲男



DMTC
1. 災害対策原論
テーマ4
効果的な災害対応を
実現するためのポイント
東京大学生産技術研究所・大学院情報学環
沼田 宗純

2. ガバナンス・組織運営

ガバナンス・組織運営は、組織が効果的に災害対策を実行することを目的とする。そのために、正解のない災害対策において組織が本質的にどのように意思決定し、行動するのかを理解する。そして、災害に関する対応行動、求められる意思決定手法の知識体系を構築し、これらを組織や地域で活用し、浸透させるための手法を確立する。

「組織対応と意思決定の概論」

沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

講義内容

組織が効果的に災害対策を実行するためには、正解のない災害対策において組織が本質的にどのように行動し意思決定するのかを理解する必要がある。特に災害対策本部の運営を中心に、過去の行政の災害対応の課題を把握することが重要である。

本講義では、2011年東日本大震災、2016年熊本地震、2018年西日本豪雨等の過去の災害対応課題を踏まえ、人を動かす、人が動ける組織をつくるリーダーシップ、災害対応の機能配置について学ぶ。

「災害対策本部運営の基礎概論」

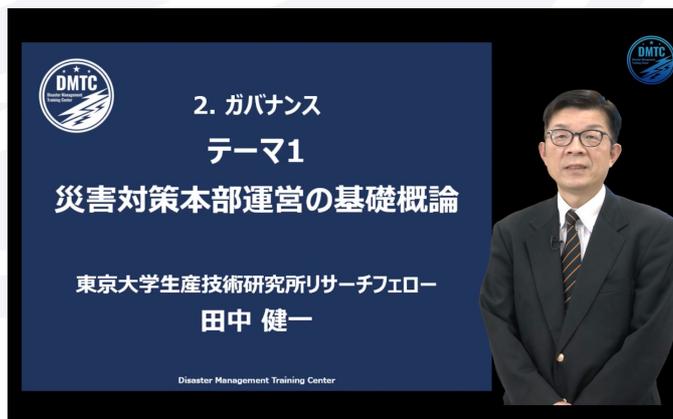
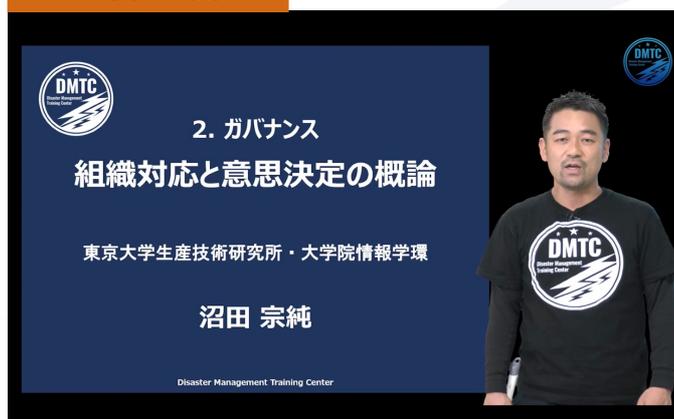
田中健一 東京大学生産技術研究所リサーチフェロー、兵庫県

講義内容

過去の災害対応の現場では、初動期に職員が本部におらず、本部で情報が集約されることなく、各担当にてばらばらに情報が管理されていたため、行政全体での情報共有や判断ができていなかった事例も多くある。災害時に災害対策本部が機能するか否かは、初動だけではなく、その後の復旧や復興へも影響を与えるため、災害対策本部の運営を理解することが必要である。

本講義では、災害対策本部の設置の目的・意義、広義と狭義の災害対策本部と組織、災害対策本部の事例、災害対策本部における情報、災害対策本部運営の準備、災害対策本部運営の訓練、災害時の意思決定の心得について学ぶ。

講義動画



2. ガバナンス・組織運営

ガバナンス・組織運営は、組織が効果的に災害対策を実行することを目的とする。そのために、正解のない災害対策において組織が本質的にどのように意思決定し、行動するのかを理解する。そして、災害に関する対応行動、求められる意思決定手法の知識体系を構築し、これらを組織や地域で活用し、浸透させるための手法を確立する。

「企業活動から学ぶBCPの本質」

高橋克彦 インフォコム株式会社、事業継続主任管理士

講義内容

防災計画とBCPの違いは何か、説明できるだろうか。多くの組織ではBCPの本質を理解しないまま、防災計画とBCPの考え方の違いが整理されずに、「BCP≒防災計画」のようなBCPを策定している組織も多い。事業継続マネジメント計画書（BCM）、事業継続計画書（BCP）、緊急時対応計画書の位置づけを学び、効果的なBCPを策定する必要がある。

本講義では、防災対策と事業継続の違い、BCP策定とドキュメント、災害対策本部の役割について学ぶ。

講義動画



3. 災害情報

災害情報の処理は、適切なタイミングで必要な意思決定を実行することを目的とする。そのために、情報収集・分析・伝達などの情報処理プロセスとコンセンサスを理解する。そして、曖昧・不明確・流動的な情報に加え、外部からの千差万別な助言を受ける事態に直面しても、最終的な意思決定の質を高めるための災害情報の知識体系を図り、その活用手法を確立する。

「災害情報概論」

沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

講義内容

適切なタイミングで必要な意思決定を実行するためには、情報収集・分析・伝達などの情報処理プロセスなど、災害時の情報処理への理解が必要である。災害時には、SNSや情報通信技術の発展により膨大な情報量、曖昧・不明確・流動的な情報に加え、外部からの千差万別な助言を受ける。このような事態に直面しても最終的な意思決定の質を高めるため、災害情報の取り扱いが重要となる。

本講義では、南海トラフ地震臨時情報を考える、災害情報の定義、時間の概念で見る災害情報、徹底して周知することの限界、多次元の災害情報、情報通信の高速大容量化、災害対応の意思決定の流れから理解する災害情報、災害対応に関連する情報項目の標準化、情報ツール、マス・メディア報道と災害対応について学ぶ。

「災害時の情報伝達」

関谷直也 東京大学大学院情報学環准教授

講義内容

住民の情報ニーズは「災害の発生や収束の予知」などであり、「わからない」ことを伝えれば住民が納得するわけではない。また、防災気象情報など多様な災害用語が増えている上に、SNSなどの普及によりコミュニケーション手法も多様化しているという課題もある。

本講義では、災害とコミュニケーション、災害とメディア、防災気象情報の課題について学ぶ。

講義動画



4. 救助・災害医療支援

救助・災害医療支援は、命を守り、命をつなぐことを目的とする。そのために、救急・医療・保健・衛生・警察など多様な視点を持ち、これらに関連付けて、人の命を守ることを理解する。そして、医療従事者、消防関係者、精神・保健・看護・衛生従事者、警察従事者等の多領域の知見を具現化し、救助から法医学までの知識体系を図り、その活用手法を確立する。

「多様な人々の連携プレーで命を守り、命をつなぐ」

沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

講義内容

救助・災害医療支援は、命を守り、命をつなぐことが目的である。そのため、救急・医療・保健・衛生・警察など多様な視点を持ち、これらに関連付けて、人の命を守る必要がある。医療従事者、消防関係者、精神・保健・看護・衛生従事者、警察従事者等の多領域の知見を具現化し、救助から法医学までの連携プレーが求められる。

本講義では、医療、保健、地域など多様な災害従事者の連携の必要性について学ぶ。

「救助・救急・医療・保健衛生の体制と課題」

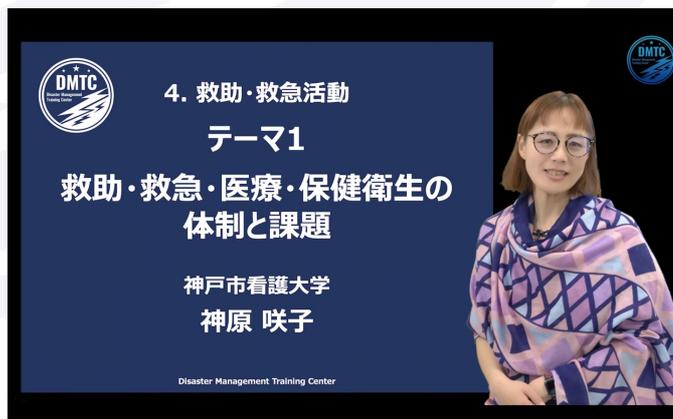
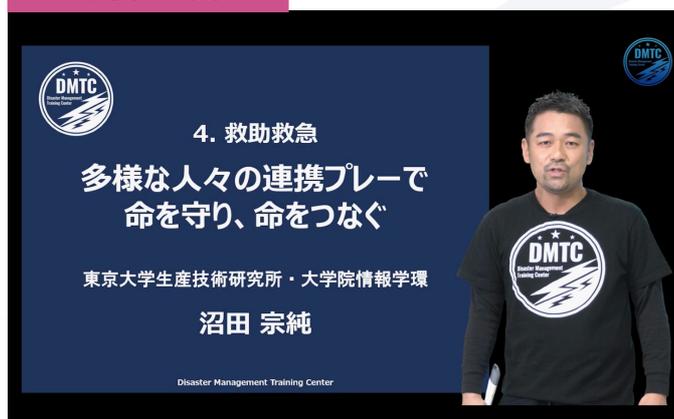
神原咲子 神戸市看護大学基盤看護学災害看護・国際看護学教授

講義内容

災害により脅かされた生命・健康・生活の確保や見守りには、地域で暮らす多様な人々と組織の連携が必要である。大量の軽傷者が発生した場合、医療機関だけで対応できるのか、刻々と変わる健康に関わるニーズにどのように対応するのか、どのように様々な組織を調整するのかなど、様々な課題がある。

本講義では、現状の課題、ニーズを把握した対応の考え方、効果的な災害対応を実現するための事前準備の考え方、災害現場での活動時の心得について学ぶ。

講義動画



4. 救助・災害医療支援

救助・災害医療支援は、命を守り、命をつなぐことを目的とする。そのために、救急・医療・保健・衛生・警察など多様な視点を持ち、これらに関連付けて、人の命を守ることを理解する。そして、医療従事者、消防関係者、精神・保健・看護・衛生従事者、警察従事者等の多領域の知見を具現化し、救助から法医学までの知識体系を図り、その活用手法を確立する。

「法医学から学ぶ災害対策マネジメント」

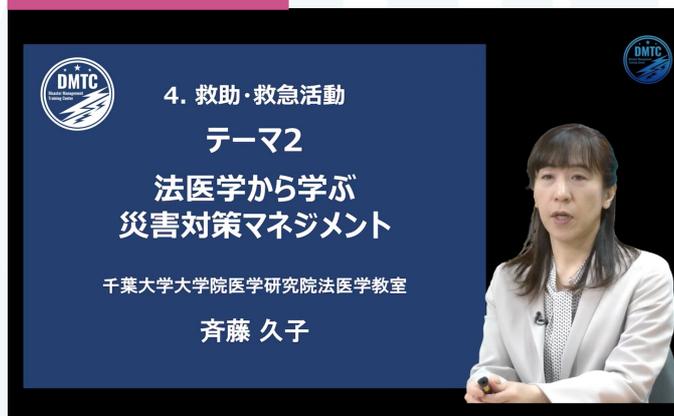
齊藤久子 千葉大学大学院医学研究院法医学教室准教授

講義内容

過去の大規模災害では多くの人命が失われ、家族の悲しみの中で、ご遺体への対応が行われてきている。しかし、多くの方が亡くなった場合、身元の特定、遺体安置所の運営など膨大な業務量となり、医師、警察など多様な実施者による対応が求められる。

本講義では、早期死体現象と個人識別、日本の大規模災害時の身元確認方法、海外における身元確認システム、今後の大規模災害対応（感染症対策、遺体安置所設営など）について学ぶ。

講義動画



5. 避難・被災者支援

避難・被災者支援は、命を守り、生活を確保することを目的とする。そのために、避難行動と被災者支援について「人はそもそもどのように物事を考え、どう行動するのか」を理解する。そして、心理学、経済学、社会学、医学、保健衛生等の学問分野の観点から避難行動と被災者支援の知識体系を構築する。避難行動から避難生活まで人の安全を確保し、生活を安定させるための必要な支援策を体系化し、その活用手法を確立する。

「避難・被災者支援」

沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

講義内容

避難・被災者支援の目的は、命を守り、生活を確保することである。避難に関する4つの論点として、避難の考え方の明確化、避難所、避難情報発令のための態勢整備、防災・災害情報がある。ここでは、行政だけでは運営に限界があり、多様なステークホルダーが関わる避難所の運営に着目する。

本講義は、2017年九州北部豪雨の福岡県朝倉市の業務量調査から、避難所運営業務の大きな流れを業務量の視点について学ぶ。

「避難所の設置・運営」

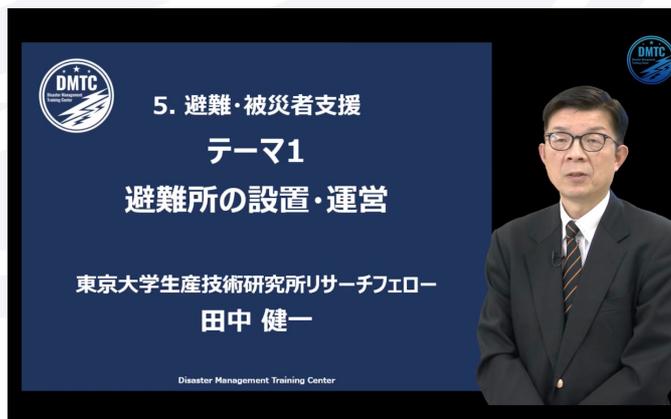
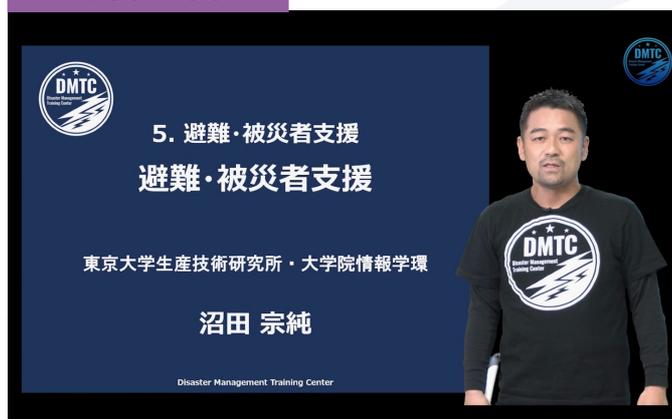
田中健一 東京大学生産技術研究所リサーチフェロー、兵庫県

講義内容

避難所は、被災者が一時的に難を逃れ、身を落ち着けるための場所であり、被災者が生活再建をはじめめるための重要な拠点である。現状では、避難場所と避難所が区別できていないこと、避難所の運営主体が明確ではないことなど、避難所の設置と運営に関する課題は多い。

本講義では、避難所と法、避難所の設置と運営、避難所生活の課題、避難所の事例、福祉避難所について学ぶ。

講義動画



6. 地域再建支援

地域再建支援は、人々の生活の質の向上と豊かな生活を支える地域活動を構築することを目的とする。そのために、住まいと地域コミュニティの観点から、居住地域における日常生活や多様な地域活動に関する活動を体系化し、地域が活動し活性化するためのメカニズムを理解する。そして、住まいと地域活動の知識体系を構築し、その活用手法を確立する。

「私たちの生活の基盤“家”を中心とした生活再建」

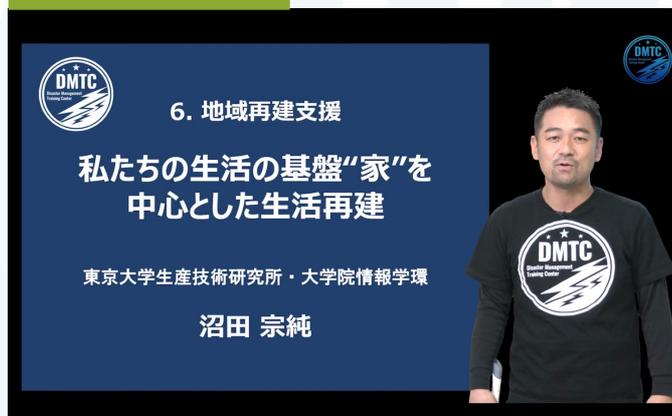
沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

講義内容

私たちの日常生活は、家によって支えられている。災害時には、「命、家、金」の3点が大切であるが、ここでは家を中心とした生活再建を学ぶ。

本講義では、過疎地域・空き家・被害形態、被災者生活再建支援制度は十分または不十分、住家の被害認定調査の現状、空撮技術やイタリアの人材活用から学ぶ効率性、マイナンバー制度についても考えてみる、被災者の自立再建に向け押さえておくべき5つの支援制度について学ぶ。

講義動画



7. 社会基盤システム再建

社会基盤システム再建は、現代都市に欠かせない社会基盤システムを確保することを目的とする。そのために、道路や公共交通などのインフラ、電気や水道などのライフライン、地域のエッセンシャル活動としての廃棄物処理などの社会基盤システムについて、予防から復旧までのプロセスを理解する。そして、社会基盤システムの災害対策を行政・民間・地域住民まで多様なステークホルダーが関わる総合工学としての観点で捉え、相互の分野を関連付けた社会基盤システムの知識体系を構築し、その活用手法を確立する。

「インフラ復旧と災害廃棄物対策概論」

沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

講義内容

社会基盤システム再建の目的は、現代都市に欠かせない社会基盤システムを確保することである。そのため、道路や公共交通などのインフラ、電気や水道などのライフライン、地域のエッセンシャル活動としての廃棄物処理などの社会基盤システムについて、予防から復旧までのプロセスを理解する必要がある。

本講義では、過去の災害対応の業務量分析を踏まえ、インフラ復旧における災害査定に多くの人員が必要であること学ぶ。

「インフラ復旧から学ぶ災害対応マネジメント」

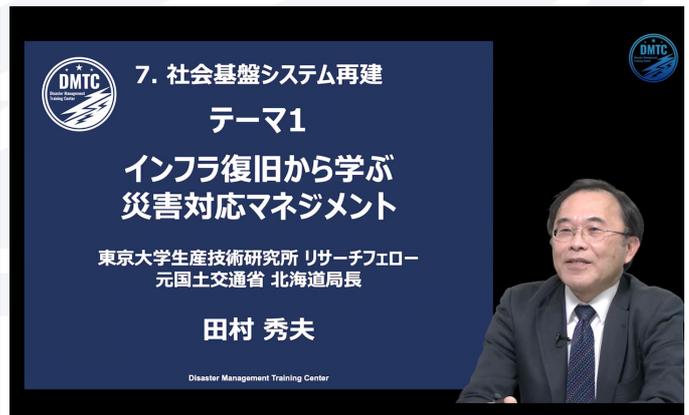
田村秀夫 東京大学生産技術研究所リサーチフェロー、元国土交通省 北海道局長

講義内容

インフラの迅速な応急復旧のポイントは、1. 社会資本の信頼性の確保、2. 被災状況の迅速な把握と復旧方針の早期決定、3. 建設業者等関係者との連携、4. 臨機応変な対応、5. 広域支援（TEC-FORCE等）と国による代行等である。

本講義では、平常時と異なる災害時のマネジメント、実際の災害対応の流れ、災害対応力を向上させるための事前準備について学ぶ。

講義動画



7. 社会基盤システム再建

社会基盤システム再建は、現代都市に欠かせない社会基盤システムを確保することを目的とする。そのために、道路や公共交通などのインフラ、電気や水道などのライフライン、地域のエッセンシャル活動としての廃棄物処理などの社会基盤システムについて、予防から復旧までのプロセスを理解する。そして、社会基盤システムの災害対策を行政・民間・地域住民まで多様なステークホルダーが関わる総合工学としての観点で捉え、相互の分野を関連付けた社会基盤システムの知識体系を構築し、その活用手法を確立する。

「災害廃棄物概論」

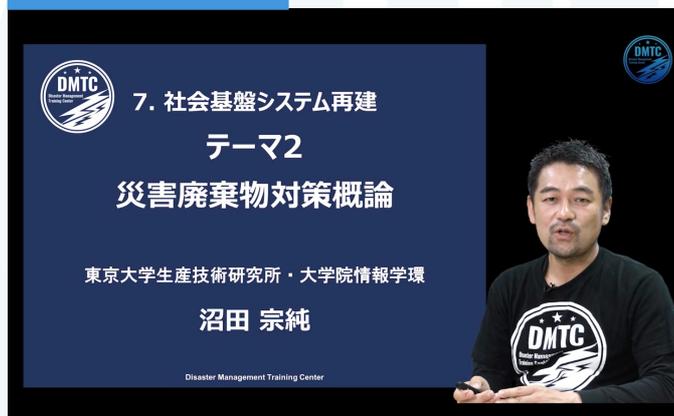
沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

講義内容

被災地の早期復旧・復興を実現するためには、まずは災害廃棄物を適切に収集・撤去し、処理を完了させる必要がある。初動対応の失敗から混合廃棄物が多くなり、処理が長期化すれば、その分復興が遅れるなど、災害廃棄物の処理は初動対応から重要な対応である。

本講義では、災害廃棄物とは、災害廃棄物処理の業務、災害廃棄物対策に係る5つの重要事項、災害廃棄物対策指針について学ぶ。

講義動画



8. 社会経済活動回復

社会経済活動回復は、社会経済活動における「家計、企業、政府」という3つの経済主体の活動を確保することを目的とする。そのために、災害により、財産や生計手段を失ったときの家計への影響、生産設備や雇用維持不能や資金不足などの企業への影響、公共サービスを提供する行政機能への影響を理解する。そして、被災地や被災者を取り巻く経済・財政・金融活動に関する法体系を整理し、農地・農林業・家畜・漁業等の社会経済活動の予防と復旧に関する知識体系を構築し、その活用手法を確立する。

「災害救助法の徹底活用と財源確保の基礎」

沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

講義内容

社会経済活動回復は、社会経済活動における「家計、企業、政府」という3つの経済主体の活動を確保することが目的である。そのために、災害により財産や生計手段を失ったときの家計への影響、生産設備の機能不全や雇用維持不能あるいは資金不足などの企業への影響、公共サービスを提供する行政機能への影響を理解することが必要である。特に、住民としては、被災地や被災者を取り巻く支援制度の理解は欠かせない。

本講義では、経済を循環させるための財政について、私たちの生活で欠かせない「3つの経済主体」を中心に考える。

「災害救助法の徹底活用」

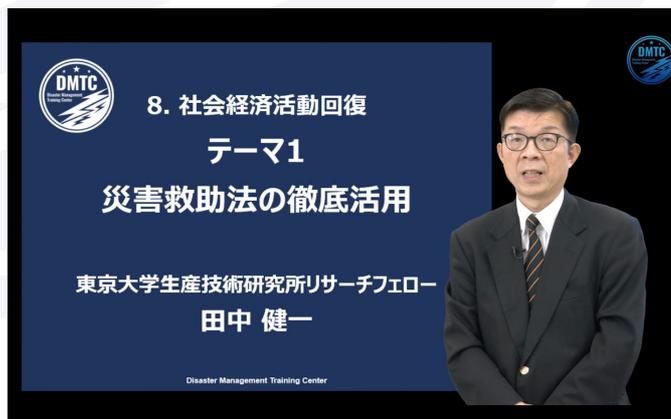
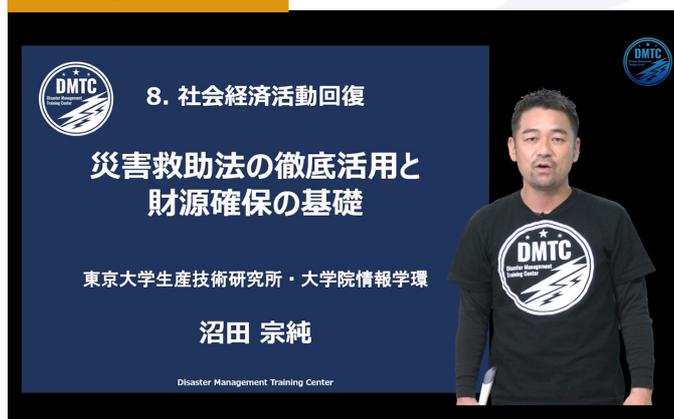
田中健一 東京大学生産技術研究所リサーチフェロー、兵庫県

講義内容

災害が起きた時に被災者に対して行政が行う対応を「災害救助」といい、自然災害が発生した場合は、被災者を支援する法制度として、災害救助法、被災者生活再建支援法、災害弔慰金等法という三つの法律が存在する。この中で、災害救助法あまり認知が進まないが、誰もが知っておくといざという時に役立つ身近な法制度である。

本講義では、災害救助と災害救助法とは、災害救助法の活用と留意点、災害救助法の特別基準と対象経費、災害救助法と生活再建について学ぶ。

講義動画



8. 社会経済活動回復

社会経済活動回復は、社会経済活動における「家計、企業、政府」という3つの経済主体の活動を確保することを目的とする。そのために、災害により、財産や生計手段を失ったときの家計への影響、生産設備や雇用維持不能や資金不足などの企業への影響、公共サービスを提供する行政機能への影響を理解する。そして、被災地や被災者を取り巻く経済・財政・金融活動に関する法体系を整理し、農地・農林業・家畜・漁業等の社会経済活動の予防と復旧に関する知識体系を構築し、その活用手法を確立する。

「災害対応における財源確保の基礎」

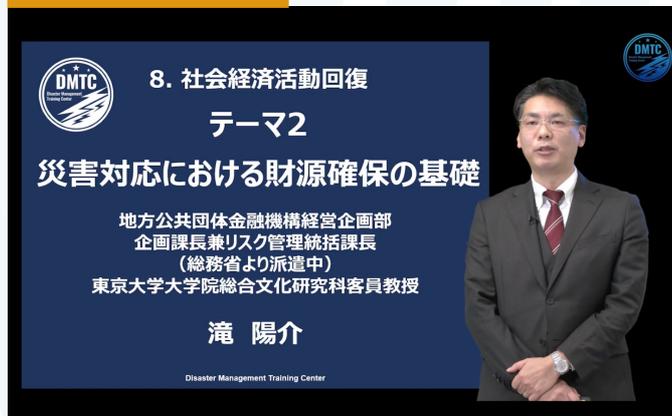
滝陽介 東京大学大学院総合文化研究科・客員教授

講義内容

地方財政が厳しい中、災害対策における財源確保は重要な視点である。災害発生後の「応急・救助」から「復旧・復興」の段階まで多額の費用が必要となる。仮にこれらの費用の全額を被災地の地方自治体負担とすると、応急・救助から復旧・復興までのスピードが財政状況により左右されかねない。そのため、国では、様々な財政支援メニューを用意し、被災地の地方自治体の財政負担を軽減している。被災した地方自治体に対して迅速かつ簡便に地方交付税を交付することにより、被災した地方自治体の資金繰りを支援するとともに財政負担を軽減する制度も多い。

本講義では、災害対応と財政支援、地方財政の基礎、国庫負担の考え方について学ぶ。

講義動画



講義時間

各講義の時間は以下の通りです。（全体で約23時間）

1. 災害対策原論（約9時間9分）
2. ガバナンス（約3時間27分）
3. 災害情報（約3時間13分）
4. 救助・災害医療支援（約1時間32分）
5. 避難・被災者支援（約1時間08分）
6. 地域再建支援（約0時間48分）
7. 社会基盤システム再建（約1時間49分）
8. 社会経済活動回復（約1時間57分）

8分野	講義タイトル	講師
1. 災害対策原論	災害対策の 基礎原論	目黒公郎 東京大学生産技術研究所 教授
	危機管理 の要諦	伊藤哲朗 東京大学生産技術研究所 客員教授
	市町村 の災害対策を学ぶ	室田哲男 元総務省消防庁国民保護 防災部長
	効果的な災害対応 を実現するためのポイント	沼田宗純 東京大学生産技術研究所 准教授
2. ガバナンス・組織運営	組織対応と意思決定 の概論	沼田宗純（同上）
	災害対策本部運営 の基礎概論	田中健一 東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー
	企業活動から学ぶ BCP の本質	高橋克彦 インフォコム株式会社 事業継続主任管理士
3. 災害情報	災害情報 概論	沼田宗純（同上）
	災害時の 情報伝達	関谷直也 東京大学大学院情報学環 准教授
4. 救助・災害医療支援	多様な人々の 連携プレー で命を守り、命をつなぐ	沼田宗純（同上）
	救助・救急・医療・保健衛生 の体制と課題	神原咲子 神戸市看護大学 教授
	法医学 から学ぶ災害対策マネジメント	斉藤久子 千葉大学大学院 法医学教室 准教授
5. 避難・被災者支援	避難と被災者支援	沼田宗純（同上）
	避難所 の設置と運営	田中健一（同上）
6. 地域再建支援	生活基盤の「家」を中心とした生活再建	沼田宗純（同上）
7. 社会基盤システム再建	インフラ復旧と災害廃棄物 対策概論	沼田宗純（同上）
	インフラ復旧 から学ぶ災害対応マネジメント	田村秀夫 東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー
	災害廃棄物 対策概論	沼田宗純（同上）
8. 社会経済活動回復	災害救助法 の概要と 財源確保 の基礎	沼田宗純（同上）
	災害救助法 の徹底活用	田中健一（同上）
	災害対応における 財源確保 の基礎	滝 陽介 東京大学大学院総合文化研究科 客員教授

1. 災害対策原論

目黒公郎 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環総合防災情報研究センター長

災害対策原論とは（約3時間00分）

- 第1章 災害のメカニズムと対策の基礎概念
- 第2章 敵を知る
- 第3章 己を知る
- 第4章 災害イメージネーション
- 第5章 適切な対策を適切なタイミングで実施する

伊藤哲朗 東京大学生産技術研究所・客員教授

危機管理の要諦（約2時間26分）

- 第1章 危機管理とは何か
- 第2章 我が国を取り巻く危機とは
- 第3章 危機に対する基本的な考え方
- 第4章 クライシスマネジメントの基本原則
- 第5章 危機に備えた組織作り
- 第6章 リーダーや指揮官の心構え
- 第7章 危機管理における意思決定の本質
- 第8章 危機に備えた事前準備

室田哲男 元総務省消防庁国民保護・防災部長

市町村の災害対策に学ぶ（約2時間12分）

- 第1章 市町村の災害対策の基本理念
- 第2章 災害に強いまちづくり
- 第3章 地域防災力の強化
- 第4章 災害予防対策
- 第5章 市町村の災害対応力の強化
- 第6章 災害初動対応
- 第7章 被災者支援、復旧・復興

沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

効果的な災害対応を実現するためのポイント（約1時間28分）

- 第1章 危機対応の特徴 ～災害対応における先読みの重要性～
- 第2章 対応可能な被害規模とは ～RLIという考え方～
- 第3章 様々な人々が推進する災害対策 ～総力戦で闘うということ～
- 第4章 災害対応の標準化の視点
- 第5章 型
- 第6章 47種の災害対策業務

2. ガバナンス・組織運営

沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

組織対応と意思決定の概論（約1時間13分）

- | | |
|------------------------------|--------------|
| 第1章 2011年東日本大震災 | 第6章 個別テーマ 導入 |
| 第2章 2016年熊本地震 | |
| 第3章 2018年西日本豪雨 | |
| 第4章 人を動かす、人が動ける組織をつくるリーダーシップ | |
| 第5章 災害対応の機能を戦略的に配置する | |

田中健一 東京大学生産技術研究所リサーチフェロー、兵庫県

災害対策本部運営の基礎概論（約0時間56分）

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 第1章 災害対策本部の設置の目的・意義 | 第6章 災害対策本部運営の訓練 |
| 第2章 広義と狭義の災害対策本部と組織 | 第7章 災害時の意思決定の心得 |
| 第3章 災害対策本部の事例 | |
| 第4章 災害対策本部における情報 | |
| 第5章 災害対策本部運営の準備 | |

高橋克彦 インフォコム株式会社、事業継続主任管理士

企業活動から学ぶBCPの本質（約1時間16分）

- | |
|------------------|
| 第1章 防災対策と事業継続 |
| 第2章 BCP策定とドキュメント |
| 第3章 災害対策本部の役割 |

3. 災害情報

沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

災害情報概論（約2時間25分）

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 第1章 南海トラフ地震臨時情報を考える | 第8章 災害対応に関連する情報項目の標準化 |
| 第2章 災害情報とは？ | 第9章 情報ツール |
| 第3章 時間の概念で見る災害情報 | 第10章 マス・メディア報道と災害対応 |
| 第4章 徹底して周知する！ | 第11章 個別テーマ 導入 |
| 第5章 多次元の災害情報 | |
| 第6章 情報通信の高速大容量化 | |
| 第7章 災害対応の意思決定の流れから理解する災害情報 | |

関谷直也 東京大学大学院情報学環准教授

災害時の情報伝達（約0時間47分）

- 第1章 災害とコミュニケーション
- 第2章 災害とメディア
- 第3章 防災気象情報の課題

4. 救助・災害医療支援

沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

多様な人々の連携プレーで命を守り、命をつなぐ（約0時間9分）

- 第1章 多様な人々による連携プレー
- 第2章 個別テーマ 導入

神原咲子 神戸市看護大学基盤看護学災害看護・国際看護学教授

救助・救急・医療・保健衛生の体制と課題（約0時間43分）

- 第1章 現状の課題
- 第2章 ニーズを把握した対応の考え方
- 第3章 効果的な災害対応を実現するための事前準備の考え方
- 第4章 災害現場での活動時の心得

斉藤久子 千葉大学大学院医学研究院法医学教室准教授

法医学から学ぶ災害対策マネジメント（約0時間38分）

- 第1章 早期死体現象と個人識別
- 第2章 日本の大規模災害時の身元確認方法
- 第3章 海外における身元確認システム
- 第4章 今後の大規模災害対応・感染症対策、遺体安置所設営など

5. 避難・被災者支援

沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

避難・被災者支援（約0時間9分）

- 第1章 避難と避難生活
- 第2章 個別テーマ 導入

田中健一 東京大学生産技術研究所リサーチフェロー、兵庫県

避難所の設置・運営（約0時間58分）

- 第1章 現状の課題
- 第2章 ニーズを把握した対応の考え方
- 第3章 効果的な災害対応を実現するための事前準備の考え方
- 第4章 災害現場での活動時の心得

6. 地域再建支援

沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

私たちの生活の基盤“家”を中心とした生活再建（約0時間47分）

- 第1章 過疎地域・空き家・被害形態
- 第2章 被災者生活再建支援制度は十分、不十分？
- 第3章 住家の被害認定調査の現状
- 第4章 空撮技術やイタリアの人材活用から学ぶ効率性
- 第5章 マイナンバーについても考えてみる
- 第6章 被災者の自立再建に向け押さえておくべき5つの支援制度

7. 社会基盤システム再建

沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

インフラ復旧と災害廃棄物対策概論（約0時間9分）

- 第1章 災害対応業務量から見るインフラ復旧と災害廃棄物対策
- 第2章 個別テーマ 導入

田村秀夫 東京大学生産技術研究所リサーチフェロー、元国土交通省 北海道局長

インフラ復旧から学ぶ災害対応マネジメント（約1時間11分）

- 第1章 平常時と異なる災害時のマネジメント
- 第2章 実際の災害対応の流れ
- 第3章 災害対応力の向上に向けた事前の備え

沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

災害廃棄物概論（約0時間27分）

- 第1章 災害廃棄物とは
- 第2章 災害廃棄物処理の業務
- 第3章 災害廃棄物対策に係る5つの重要事項
- 第4章 災害廃棄物対策指針

8. 社会経済活動回復

沼田宗純 東京大学生産技術研究所・大学院情報学環准教授

災害救助法の徹底活用と財源確保の基礎（約0時間8分）

第1章 経済を循環させるための財政
第2章 個別テーマ 導入

田中健一 東京大学生産技術研究所リサーチフェロー、兵庫県

災害救助法の徹底活用（約0時間56分）

第1章 災害救助と災害救助法とは
第2章 災害救助法の活用と留意点
第3章 災害救助法の特別基準と対象経費
第4章 災害救助法と生活再建

滝陽介 東京大学大学院総合文化研究科・客員教授

災害対応における財源確保の基礎（約0時間51分）

第1章 災害対応と財政支援
第2章 地方財政の基礎
第3章 国庫負担の考え方



【お問い合わせ先】

東京大学生産技術研究所附属 災害対策トレーニングセンター

Disaster Management Training Center, IIS, The University of Tokyo

〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1 Be504

<https://tdmtc.tokyo>

